

異なるシャツブラウス袖のデザイン画表現研究

成 田 香野子*

A Study of Fashion Illustrations of Shirt Blouse Sleeve Patterns

Kanoko Narita

要 旨 デザイン画表現において上衣の着動作時に発生するドレープを描き表わすことは、最も重要な表現の一つであると考えられる。ドレープは基本的には立体である人体と平面の布との挟間に作られた空間的ゆとりが、着動作時に身体と布との接点間で引き合うことにより生じるものである。

本研究では本学一学年次の「ファッション画基礎表現学習」におけるシャツブラウスを取り上げ、2つの高さの異なる袖山の既製品を選び、モデルに着装させ、観察し、ラフスケッチを行うと共に、平面パターン、立体構造から着動作時の袖と身頃に出来るドレープのデザイン画表現実験を行った。

その結果、袖山の高い方は袖ぐりの曲線が強く、上腕部から胸部全体において布が体に近接し、身体の形態が表面に現われやすく、動作と共に短い曲線状のドレープが観察された。一方、袖山が低く身幅が広い方は身頃前後の左右4箇所ゆとり分である縦のドレープが生じ、胸部全体をボックス型に包んだ。袖ぐりは前者より直線的で肩を接点に肘、手首それぞれが布と接点を持ち、それらを繋ぐ深い直線的なドレープが観察された。これを描き分けるには着装状態の観察から描線の太さが有効に働くことを理解することが重要であると考えられる。

I はじめに

ファッションデザイン画は衣服デザインの完成予測画、創作のためのイメージ画、流行調査レポート、分類、提案のための情報画など、ファッション専門分野において欠かせない平面の視覚伝達媒体である。

それは衣服の立体造形と平面理論、素材、加工方法、衣服造形美学、流行現象の物質的心理的分析力、人体の形態についてなど、多様な服装学の専門領域に関わるものである。描き手にはそのような知識と共に立体を平面に描く絵画的描写力、機能美的構成力、グラフィックデザ

インなどの総合的な技術や創作性が必要である。デザイン画の表現方法、技法は様々であるが、いずれもその伝達目的において充分機能し得る描き方であることが重要である。

服装デザインにおいて最も基本と考えられる衣服造形と人体動作の関係を的確に捉え、デザイン画表現として伝達するためには、衣服に生じる立体的な様相をいかに平面上に表現するかが重要となる。平面上に描いた図から布の特性やパターンが推察出来るということである。そのために本研究は、ドレープの様相をどの様に描き分けていったら良いかを研究することが目的である。

デザイン画のテキストでは、表現技法について細かく言及しているものはあるが¹⁾、「布とパターンと描写との関連」についてはほとんど

* 本学助手 ファッションデザイン画

見ることが出来ない。

II 研究方法

1. 対象シャツブラウスの選定

袖山の高さに違いがある既製のシャツブラウス2種を求め、その平面パターンを実測し、各々のシャツブラウスの構造をパターン上から明らかにした。その後3種の着姿ポーズ写真を元に細密描写、略式線画、デザイン化した略式線画により表現する。シャツブラウスの実測値および、表示の号数は表1に示した。

表1 実測値

サイズ項目 シャツブラウスのタイプ	JIS 記号	着装者 バスト	実測値 (cm)			
			バスト	AH	袖山	袖丈
A	M	88	96	45.5	9.6	59
B	160A	88	110	56.3	7	57

2. 袖山の形状とパターンとの関係

2種のシャツブラウスの内、一方は高い袖山(9.6cm)、渡りの狭い長袖、身体の曲面、腕の付け根に沿う曲線的な袖ぐりを持ち、胸ダーツを配し、胸部と上腕部が身体に沿った身頃である。これを以下Aタイプとする。

そしてもう一方は、低い袖山(7cm)、渡りの広い長袖、身体の曲面、腕の付け根から離れた直線的な袖ぐりを持ち、胸ダーツは裾ないし脇に逃がし、胸部、上腕部が身体から離れ、平面的な身頃のシャツブラウスを、以下Bタイプとする。またシャツブラウスに使用された布は表2に示した²⁾。

実測に基づき既製のシャツブラウスのパターンを展開した(図1-a, 図1-b)³⁾。

表2 布の諸元

	布名	材質 (%)	糸密度
シャツブラウスA	ブロード	綿100	46×27
シャツブラウスB	オックスフォード	綿100	16×46

3. 着姿状況の分析

Aタイプは全体に身体の曲面的な形態がその表層に現われやすく、ドレープは腕部に短い曲線やコの字状の細く低い起伏となって観察された。一方Bタイプは身頃の前後左右の脇にゆとり部分であるドレープが現われ、身頃全体がボックス型になり、腕の動作に伴い肩、肘、手首など布面が身体に接する部分を起点に引き合う大きな屈曲線や深く長い直線的な形状のドレープが生じることを確認出来た。

III 描写表現による相違の考察

1. 細密描写

まずモデル着姿写真(2-a, 3-a, 4-a, 5-a, 6-a, 7-a)からスードの状態を想定してラフスケッチを行った。バストポイントをマークし、ボックス型の立体を描き、そのスードにシャツブラウスを着装していることを意識しながら線画を描いた。そして布や身体の立体が作り出す陰影の濃淡を面として捉え、鉛筆によって明暗のグラデーションをつけてタッチを重ね、布の厚みや流れ、身体のボリュームが感じられるように描いた(図2-b, 3-b, 4-b, 5-b, 6-b, 7-b)。

2. 描線のみの略式線画

細密描写ではデザイン画として描き表す線は存在しない。そのため形態の輪郭を線に表し、立体に出来る陰影の「明」と「暗」の境界を線の太さの違いをつけてペンとインクにより描き分けた(図2-c, 3-c, 4-c, 5-c, 6-c, 7-c)。

まず下描きとして鉛筆でスード状態の線画を描いてから、身体のボリュームによって身頃全体がボックス状の立体面を作り出すことを意識しながら着姿状態を描き加えていった。

A・Bタイプ共に1から読み取れるドレープの稜線や起伏をその度合いによって、強弱をつけながら描写した。例えばドレープのボリュームが大きく濃い影が出来ている部分には、画面に強くペン先を押し付けたり、描線を重ねて太いラインで表現し、反対にドレープが小さく陰影が薄い場合には細いラインで描いた。

3. デザイン化された略式線画

ドロ잉ペンの太細を使い分け、輪郭線、布の重なり、ドレープの深浅等強弱をつけて描いた。よりデザイン的な表現に近づけるため、布が直線的に張って見える部分や、真っ直ぐに下垂している部分については定規を用いて整理された表現を試みた（図 2-d, 3-d, 4-d, 5-d, 6-d, 7-d）。

ドロ잉ペンの均一な太さを使い分けて描くことによって衣服のデザインの特徴が適確に伝達出来ると考える。

描写表現によって立体を捉える時に、特に立

体の輪郭や起伏の状態を表す陰影の明暗を描き分ける必要がある。この「明」と「暗」との境界を平面上のラインで描く時に、線の太さと細さを使い分けて表現することが重要である。「ライン」での表現は衣服や身体の輪郭や、布が重なっている部分、又は布のドレープが大きく目立って見える部分には太く強いラインで描く。そして反対に衣服の構造線や身体の輪郭以外の部分など離れて見てははっきりと見えて来ない部分、又は布の僅かなドレープ部分は細いラインで描くことにより、着装状態での衣服のデザインや構造が明確に伝達出来ると考える。

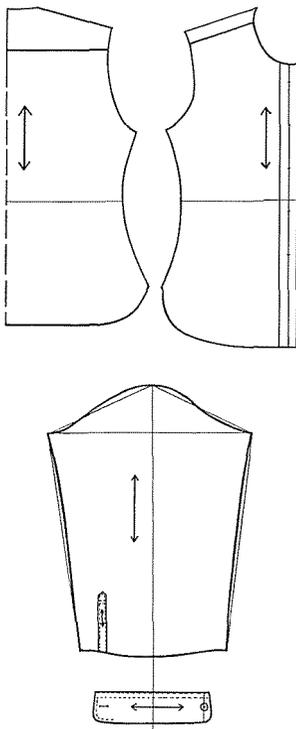


図 1-a Aタイプ 平面パターン

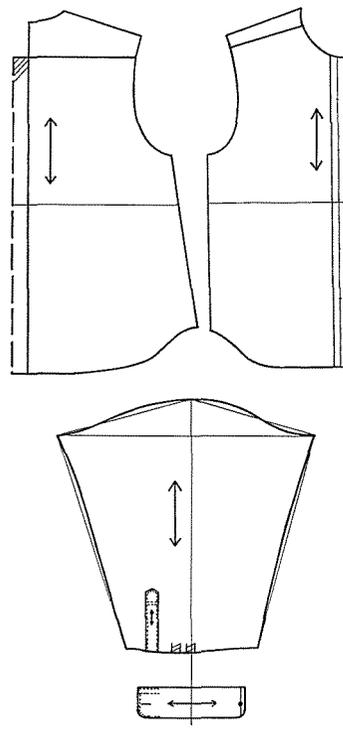


図 1-b Bタイプ 平面パターン

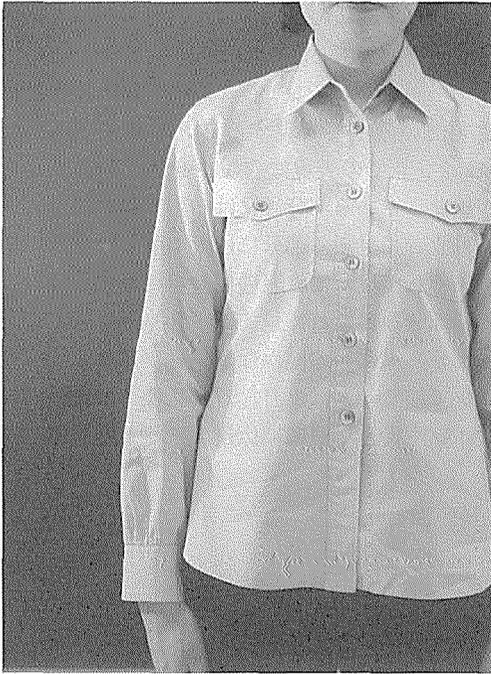


図2-a Aタイプ 腕を下ろしたポーズ
モデル装着写真

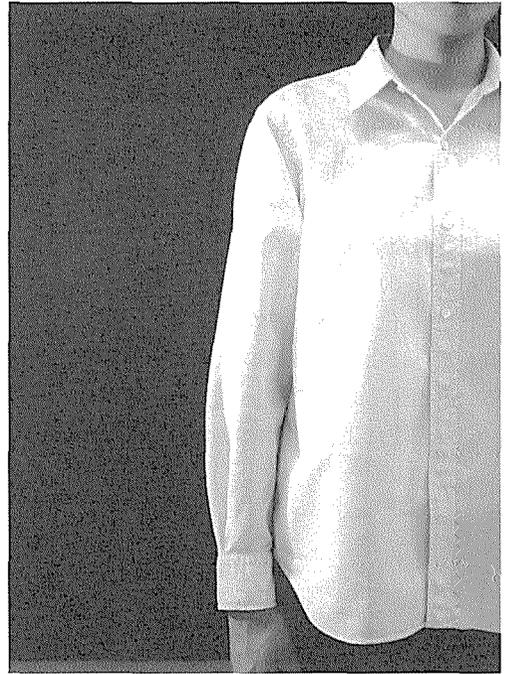


図3-a Bタイプ 腕を下ろしたポーズ モデル着
装写真

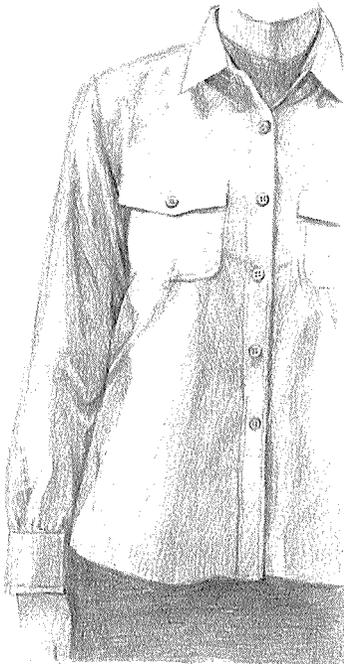


図2-b Aタイプ 腕を下ろしたポーズ 細密描写
/水彩紙、2B鉛筆 原画寸法25.7×18.2 cm

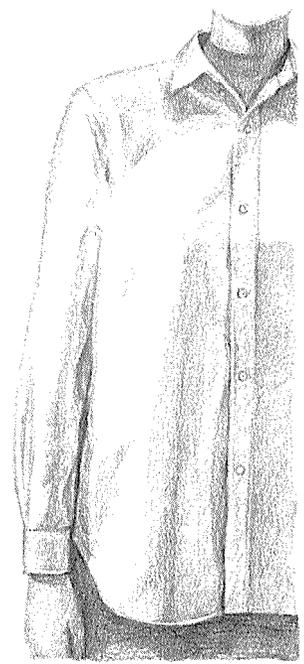


図3-b Bタイプ 腕を下ろしたポーズ 細密描写
/水彩紙、2B鉛筆 原画寸法25.7×18.2 cm



図 4-a A タイプ 腕を30度程度身体から離れた
ポーズ モデル装着写真

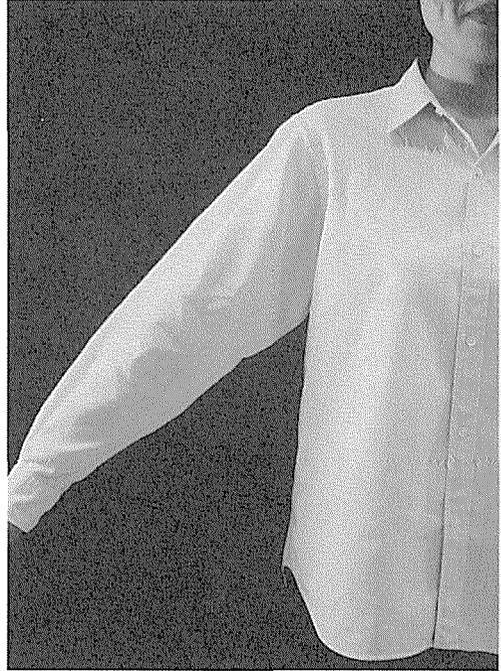


図 5-a B タイプ 腕を30度程度身体から離れた
ポーズ モデル装着写真

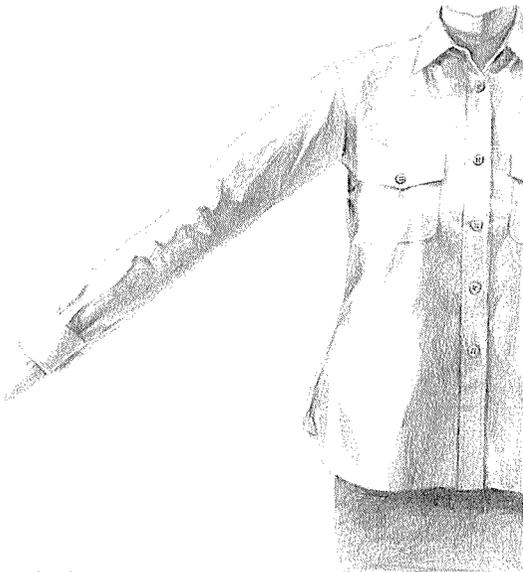


図 4-b A タイプ 腕を30度程度身体から離れた
ポーズ 細密描写/水彩紙、2B 鉛筆 原画寸法
25.7×18.2 cm



図 5-b B タイプ 腕を30度程度身体から離れた
ポーズ 細密描写/水彩紙、2B 鉛筆 原画寸法
25.7×18.2 cm

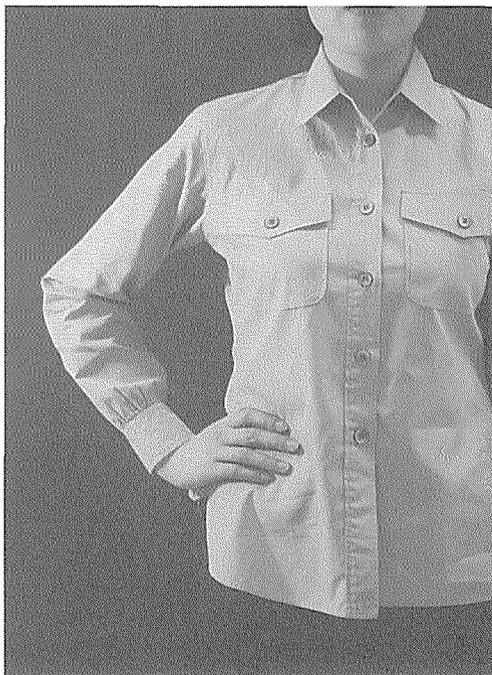


図 6-a Aタイプ 肘を曲げたポーズ モデル着装
写真

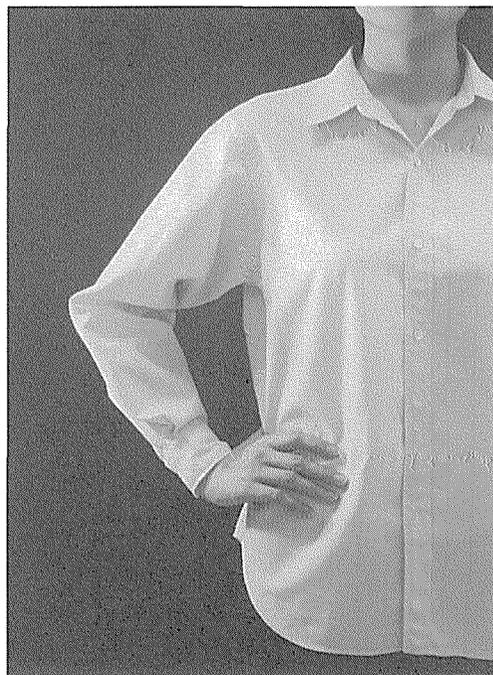


図 7-a Bタイプ 肘を曲げたポーズ モデル着装
写真



図 6-b Aタイプ 肘を曲げたポーズ 細密描写/
水彩紙、2B 鉛筆 原画寸法25.7×18.2 cm

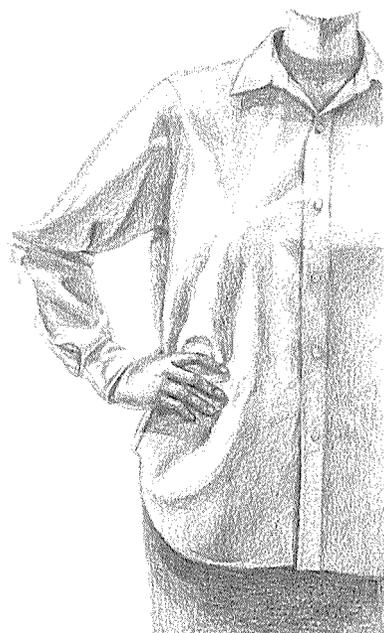


図 7-b Bタイプ 肘を曲げたポーズ 細密描写/
水彩紙、2B 鉛筆 原画寸法25.7×18.2 cm

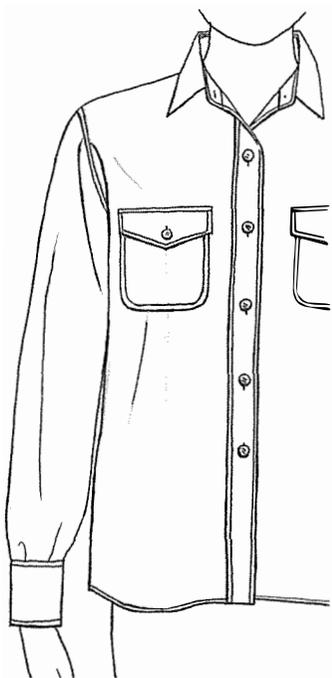


図2-c Aタイプ 腕を下ろしたポーズ 描線のみ
の略式線画/レイアウトペーパー、ペン、インク
原画寸法21×12 cm

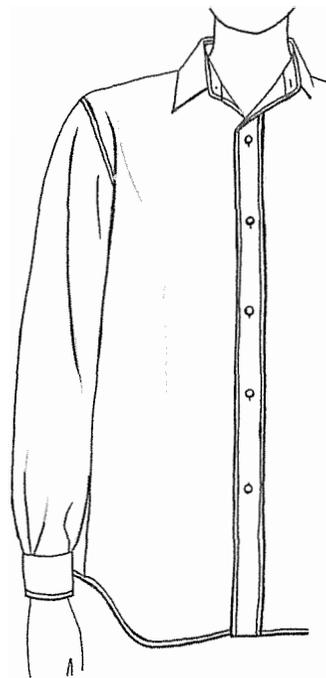


図3-c Bタイプ 腕を下ろしたポーズ 描線のみ
の略式線画/レイアウトペーパー、ペン、インク
原画寸法21×11.5 cm

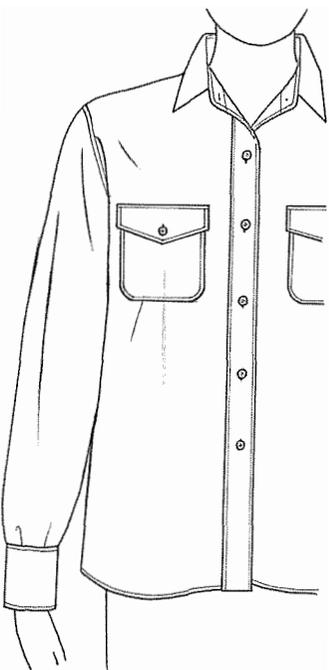


図2-d Aタイプ 腕を下ろしたポーズ デザイン
化された略式線画/レイアウトペーパー、ドロー
イングペン0.5 0.1 mm 原画寸法21×12 cm

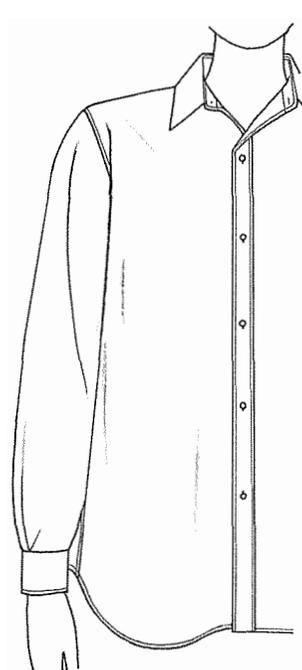


図3-d Bタイプ 腕を下ろしたポーズ デザイン
化された略式線画/レイアウトペーパー、ドロー
イングペン0.5 0.1 mm 原画寸法21×11.5 cm

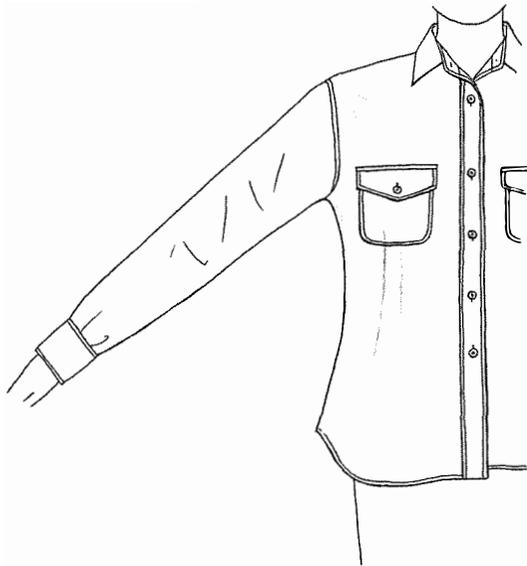


図4-c Aタイプ 腕を30度程度身体から離れた
ポーズ 描線のための略式線画/レイアウトペー
パー、ペン、インク 原画寸法21×19.5 cm

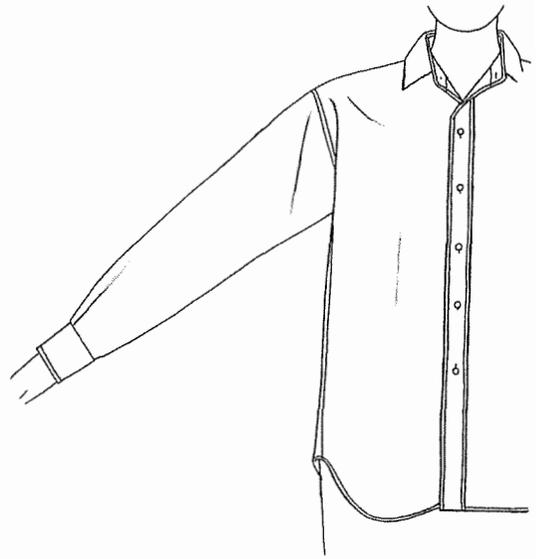


図5-c Bタイプ 腕を30度程度身体から離れた
ポーズ 描線のための略式線画/レイアウトペー
パー、ペン、インク 原画寸法21×19.5 cm

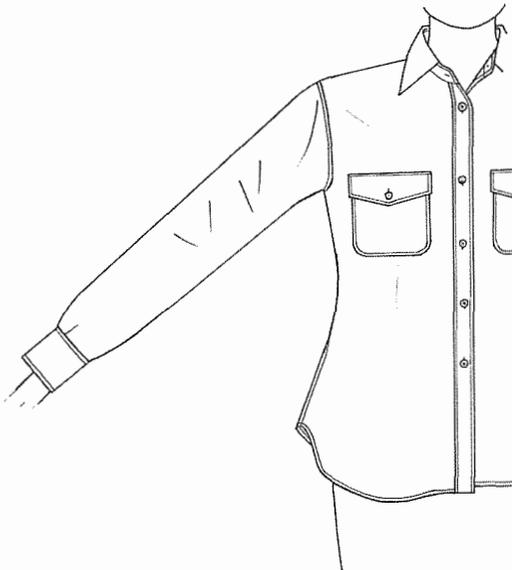


図4-d Aタイプ 腕を30度程度身体から離れた
ポーズ デザイン化された略式線画/レイアウト
ペーパー、ドローイングペン0.5 0.1mm 原画
寸法21×19.5 cm

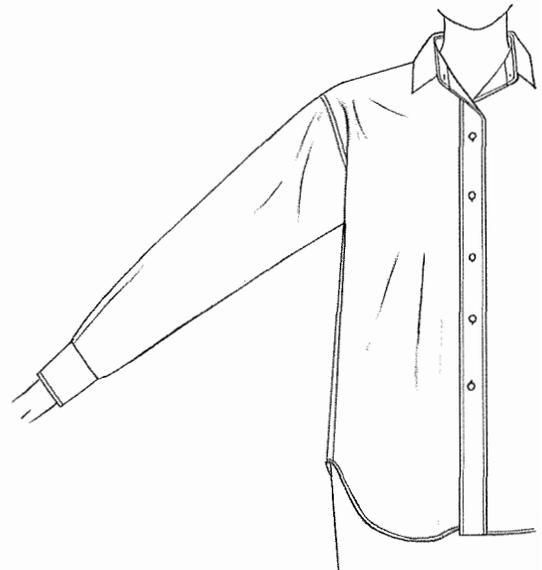


図5-d Bタイプ 腕を30度程度身体から離れた
ポーズ デザイン化された略式線画/レイアウト
ペーパー、ドローイングペン0.5 0.1mm 原画
寸法21×19.5 cm

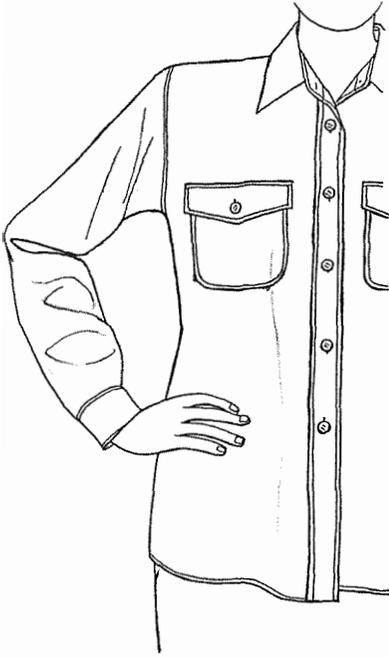


図 6-c Aタイプ 肘を曲げたポーズ 描線のための略式線画/レイアウトペーパー、ペン、インク
原画寸法21×14.5 cm

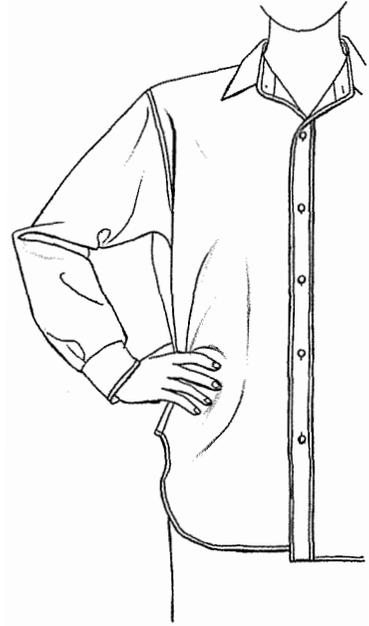


図 7-c Bタイプ 肘を曲げたポーズ 描線のための略式線画/レイアウトペーパー、ペン、インク
原画寸法21×13 cm

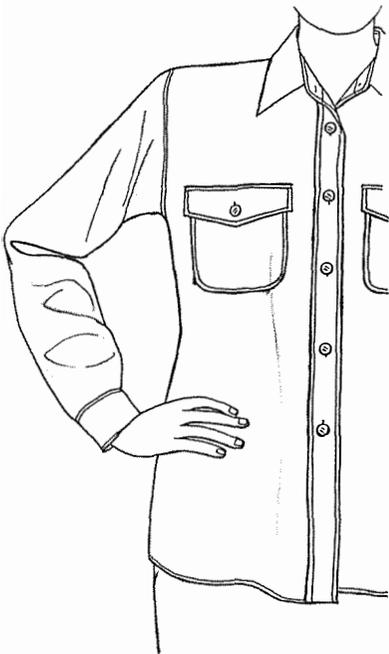


図 6-d Aタイプ 肘を曲げたポーズ デザイン化された略式線画/レイアウトペーパー、ドロ잉ペン0.5 0.1 mm 原画寸法21×14.5 cm

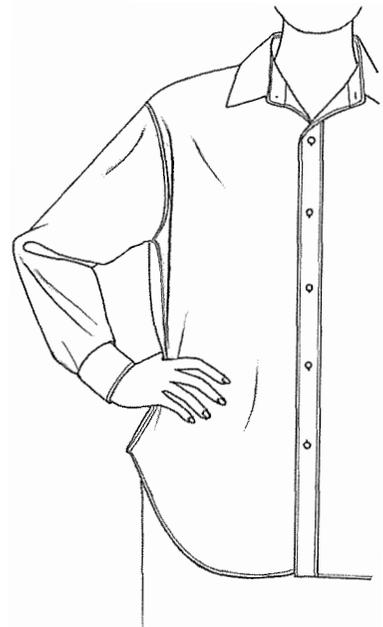


図 7-d Bタイプ 肘を曲げたポーズ デザイン化された略式線画/レイアウトペーパー、ドロ잉ペン0.5 0.1 mm 原画寸法21×13 cm

Ⅳ ま と め

シャツブラウスの袖山の高さの違いと身頃の関係は、それを着装している身体との密着度を示すドレープの様相の違いを描き分けることによって表現することが出来る。袖山が高い場合には、腕部に現われる短く細いコの字状のドレープを示す線を細いラインで描き、又袖山が低い場合には、身頃の脇部分に大きなドレープが生じるのを太目の強いラインによって描き、上腕部に肩から垂れ下がって出来る大きなドレープや、肘を曲げた際に出来る大きな屈曲線など目立って見えるドレープについては、太いラインを布の流れに沿って描く。

このように着装状況をラフスケッチし、そして描線を描き分けるというステップを踏むことが、学習過程においては重要ではないかと考える。その場合、本研究のようにデザインの違う2種の衣服を着装した状態を比較検討することにより、両者の違いを納得することが出来たので、このような制作過程を経ることが大切であると思われる。

謝 辞

終わりに、本研究をまとめるにあたり、ご指導いただきました本学ファッション画研究室の

矢島功教授、服装デザイン学研究室飯塚弘子教授に深く感謝申し上げます。

注

- 1) 矢島は「ドレープ(ひだ)はコスチューム表現にとって欠かせない要素の一つ」として、ドレープの出現の要因を解説し(矢島功著:MODE DRAWING Costume, ATORIE Ko p.18, 1987),熊谷は輪郭線の描き方について「脇の下や股下などの影ができる部分は、線を太く濃く描く。身体に洋服がフィットしている肩、ひじ、腰なども太く濃く描く。袖やスカート、パンツなどは、上の方を太く下の方を細く描く。」と述べ(熊谷小次郎著:ニューファッションイラストレーション 画材と素材の描き方,株式会社講談社, p.65, 1955),須貝・青木は「側面からみた腕の肘部を中心にしたカーブがついていることから……のようなパターンができています」と腕の形とパターンの関係を述べ、また腕の動作に伴って出来るしわの付き具合についても言及している。(須貝一男,青木伊津子著:ファッション・デザイン画,文化出版局, p.57, 1974)
- 2) 布の諸元に関しては 成瀬信子著:基礎被服材料学,文化出版局 p.96(1985)を参考にした。
- 3) パターン展開にあたっては 中屋典子,三吉満智子監修:文化女子大学講座 服装造形学 技術編Ⅰ,文化女子大学教科書出版部 p.22(2001)を参考にした。